

杜の都のシンボル「広瀬川」を、市民の手で未来へ

広瀬川1万人プロジェクト 第34回 広瀬川流域一斉清掃 開催

爽やかな秋晴れとなった秋分の日(9月23日)、「広瀬川1万人プロジェクト 第34回広瀬川流域一斉清掃」が行われました。同プロジェクトは、「杜の都・仙台」のシンボルである広瀬川の自然環境を守り、多くの市民が親しめる河川とすることを目的に流域の一斉清掃を行うもので、毎年春と秋に開催。100万都市仙台的1人に当たる1万人をキーワードに、市民・企業・行政が連携し、2002年から活動を続けてきました。今回は「みやぎ海つなぎアクション2023うみ・かわ同時クリーン」も同日開催され、広瀬川流域に加え、内陸部のゴミが

川を通して流れつく海岸なども会場となっており、これまでで最多となる20会場で清掃活動が行われました。

当日は1549人が参加。ゴミ袋とトンゴを手にゴミ拾いを行い、合計285袋分のゴミを回収しました。そのほとんどはペットボトルやカン、ビン、タバコの吸い殻、食品の包装材などでしたが、会場によってはパーベキューの放置ゴミや、不法投棄と思われる自転車や車のホイールなども回収されました。清掃終了後、参加者からは「ゴミを拾いながら、広瀬川の環境に向き合うことができた」や「家族と一緒に参加でき、良

い機会になった」などの声が聞かれました。同プロジェクト実行委員会事務局の谷田貝泰子さんは「普段自然に触れ合う機会がない人も、この清掃活動に参加することで広瀬川に親しみきっかけになればうれしい」と期待を寄せています。

あしたのみどりキャンペーンでは、これからは植樹・花壇づくりなどの支援活動を継続するとともに、仙台のみどり豊かな景観や環境を未来につなぐための取り組みを応援していきます。



職場の仲間や家族と一緒にゴミを回収



源橋会場では250人の市民が清掃活動に汗を流しました



回収ゴミには、自転車などの不法投棄された物も



活動終了後は、感謝を表すハンドサインで記念撮影

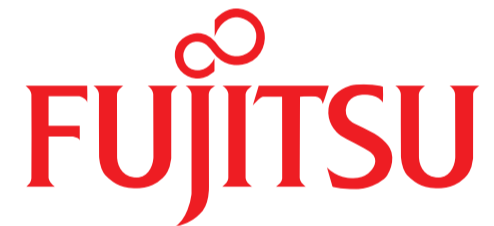
特別協賛



みやぎの
環境保全米

JAグループ宮城

企画協賛



一般協賛

